

伴 英幸さん 岩内講演会

「地層処分の問題点は何か？」

2020年10月3日(土) 13:30~15:00

岩内地方文化センター 2F会議室

参加無料・申し込み不要 (間をあけて座ります; 約70人収容可能)

活断層(赤線)が陸地のすぐ近くまで迫る寿都から神恵内にかけての海底
神恵内近くの活断層は、断層面が陸地側に傾くので、断層面は神恵内の直下にのびており、直下型地震の可能性があります。



地層処分について詳しい伴 英幸さんが、寿都で講演されることになりましたので、岩内での講演もお願いしました。NUMO(ニューモ)のマップでは、日本の国土の65%が地層処分の「適地」とされていますが、寿都も神恵内も、大きな海底活断層がすぐそばにあり、どうてい「適地」とはいえません。

そもそもNUMO(ニューモ)というのは、原発をもつ電力会社が、原発から出たゴミを原発からどこかにもっていきたくためにつくった組織であり、国民のために国がつくったものではありません。

ですから、少しでも、ゴミをうめる場所をふやしたいために、じっさいには適していないところも、むりやり「適地」にしてしまっているのです。

電力会社は、もともと原発の敷地内に、使用済み核燃料を保管してきました。それがいっぱいになりそうだから、よそへもっていこう、というのです。

危険な核のゴミをどこかが引き受けないと、まるで私たちが無責任であるかのように宣伝されていますが、無責任なのは、電力会社のほうなのです。

そのような「地層処分」の問題点を、わかりやすくお話しいただく予定です。

伴 英幸さん プロフィール

1951年三重県生まれ。生活協同組合専従を経て1990年に原子力資料情報室のスタッフとなる。95年から2015年まで事務局長。98年に共同代表となり現在に至る。

脱原発の立場から原子力政策大綱の策定議論に参加した(2004年)体験から、原子力政策、特に核燃料サイクルと放射性廃棄物の諸問題を追及している。

現在、原子力市民委員会委員、環境NGOのネットワーク「グリーン連合」幹事、新宿代々木市民測定所理事などを務める。また、総合資源エネルギー調査会の放射性廃棄物ワーキンググループの委員を務める。



主催:「伴 英幸さん講演会」実行委員会
問い合わせ先: 090-8899-9240 (佐藤英行)